愛媛大学教育学部紀要　人文・社会科学　第32巻　第2号　77～91　2000

資料：『子どもの発見』―先行に関する試論（2）

田　中　弘　子
（家庭科教育研究室）

I　緒　　言

近年，社会史的，実証的な子ども研究が活発になされるようになった。1960年にPh.アリエスが提起した問題は，主として社会における子どもと家族の関係の変化であったが[1]，とりも直さずそれは家族理論の新たな展開をもたらす契機となった。日本においては1980年代より，本格的な論議や比較研究がなされるようになった。とりわけ，民俗学的，あるいは社会史的な子ども（学）研究[2]が盛んに行われ，子どもの見直し，すなわち子どもをどのように観るかを問い，そのアプローチの仕方に大きな変化をもたらした。それは研究の領域ばかりではなく，一般にも敷衍化し様々の立法にも結実した[3]。

ところで日本において子ども自体に注目し，子ども集団の調査を行ったのは早く，1930～1940年代より柳田国男や竹内利美らによってである[4]。近代以前から全国的にみられた子供組の慣習は，多くは男子のみによって行われたが，子どもたちが集落の生業および社会生活に関与していく過程であった。すなわちその集落の生活において，子どもたちを共同化していくこと，あるいは総合的な教育の意味が精巧に仕組まれていた。

本試論は（1）において，近代以前の庶民階層における子育ての際の大人と子ども，また子どもと環境の関係について，宮城県の農漁村に明治以前からひき続き存在している，子供組行事の調査に基づいて考察した[5]。その中で，宮戸島月浜の子供組行事「えんずのわり」においては，「年序」のみの論理によって，一定年齢に達した子どもたちが，小正月に神事の任務と権威を独自に担う。その事によって，その期間（7歳から14歳まで，1年のうち10月から毎日曜日のマキトリ等の準備と，1月の小正月の「お籠もり」の5日間）は私的な親子の関係を超え，または切り離される。そこには，子どもだけの独立した世界があり，それが社会において期待などを含んで認知され，また，各親子双方が自己の社会における位置関係などについて，自覚を迫られる契機としての意味が注目された。

本報告（2）では，宮城県桃生郡鳴瀬町宮戸月浜および同県角田市金津における子供組行事を担う年代の子どもたち男女を中心に，日常的な手伝仕事[6]・遊びなどを通して，友だちや家族との関係の在り方，生業・集落，教育などの関連をさらに深めたい。方法は，観察・聴きとり，アンケート調査の他，文献等による。

Ⅱ　子どもの「手伝仕事」と「遊び」

前稿で述べたように宮戸島（図１）は温暖な気候に恵まれており，以前より縄文期の遺跡・遺物が豊富に発掘され研究がすすんでいる。従来の半農半漁から，近年は自給程度の農業と，漁業，観光，釣り舟，民宿等に移行した。1990年代に入って宮戸島の４つの浜のうち，里浜をのぞく室浜，大浜，月浜では，漁業の中心になっていたノリの養殖よりも，観光，民宿へ比重が移って来ている。理由は主として機械が高価であることと，冬のノリつみと民宿の多忙が両立し難いためである。

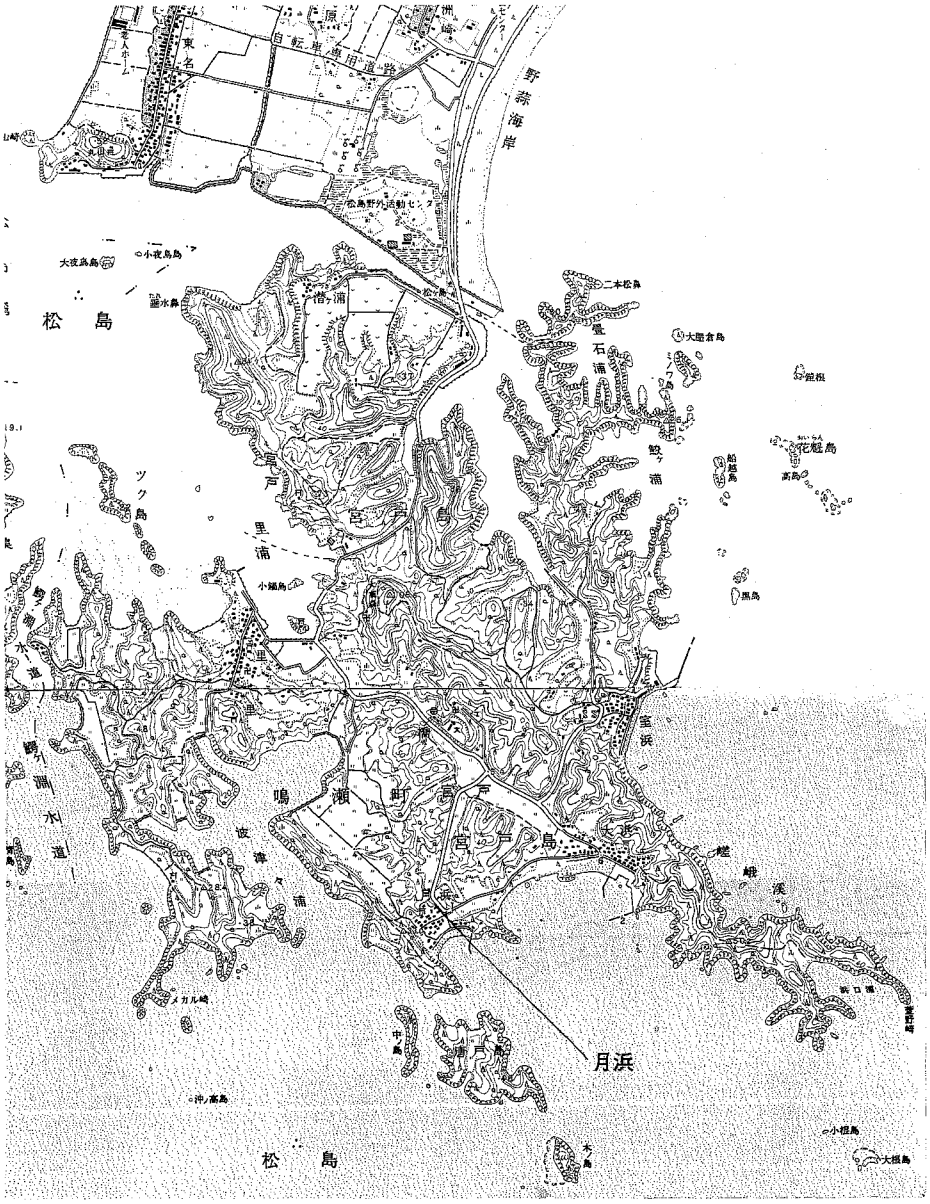

図１　宮城県桃生郡鳴瀬町宮戸月浜

江戸時代に宿町として栄え仙台藩の在所があった角田市金津地区は，古くから良質の桑園地帯であった。1960年代より角田市を中心に工業開発がすすみ，隣接する金津地区は近年は桑より稲作への転換，また週末農業化し，現在では殆ど雇用労働への移行がみられる。

子どもたちの日常の手伝仕事と遊びについて，子供組に参加している子どもたちが通学している学校において，先行研究にならってそれらの種類を調査した[7]。また，年代にそってその内容を比較するために，子どもたちが質問紙をもち帰り，10歳前後の時期を目安に親世代，祖父母世代にも記入してもらった。したがって，日常生活における手伝仕事の数値による頻度，数量は不明である。

宮城県桃生郡鳴瀬町立宮戸小学校（1989,11）	子ども	50,	親・祖父母世代	73
宮城県角田市立藤尾小学校（1989,11）	子ども	113,	親・祖父母世代	189
宮城県角田市立金津中学校（1989,11）	子ども	233,	親・祖父母世代	377

子どもたちの手伝仕事と遊びの種類は，年代順に先行の調査と並列して次の群にまとめた。

表 1－1） 2） 3）	表 5－1） 2） 3）	1920～30年代
表 2－1） 2） 3）	表 6－1） 2）	1940～50年代
表 3－1） 2） 3）	表 7－1） 2）	1960～70年代
表 4－1） 2） 3）	表 8－1） 2） 3） 4）	1989年

子どもの手伝仕事の種類

表1－1）
竹内，信州東筑摩郡本郷村（1936，尋常4年（11）歳）
（夏休み　7.26－8.17，秋蚕休み　8.25－9.5）

男子（夏休み，11歳日記より）	女子（夏休み，11歳日記より）
桑むぎ　桑しばり　繭かき　繭売りに行く　ひきひろひ	桑はこび　こじりとり　桑くれ　ひきひろひ
粟畑草むしり	
用足し	水汲み　炊事　米とぎ　ごはんたき　ごはんごしらい　子守　庭掃除

男女（夏休み，30名分より）
桑しょい　桑むぎ　桑しばり　桑くれ　こじりとり　あみはらい　ひきひろい　まゆかき　しき紙のせいり　かごほし　あみほし　こもほし　かごはこび
草むしり　水くれ　畑さくり　虫取り　田の水見　炭焼手伝
子守　おそうじ　ごはんごしらい　火たき　兎のえ取り　米とぎ　あらい物　たきぎ入れ　ぼや入れ　用たし

男子（秋蚕休み，男女計10名分中）	女子（秋蚕休み，同）
桑むぎ　網払ひ　蚕座紙そろへ　桑くれ　蚕じり取り　桑しばり　桑しょい　桑運び　ござよせ　こもよせ　ひきひろひ　蚕じり　はらひ　籠干し　籠そろへ	桑むぎ　蚕じり取り　ひきひろひ　桑くれ　桑しょい（桑運び）　網払ひ　桑切り　繭かき　蚕じりはらひ　こも運び籠運び
	草むしり
火焚き　子守　ぼやひろひ　兎の餌とり　水汲　用足し炊事　掃除　お茶はこび　鯉とり　鯉の餌くれ	子守　兎餌とり　水汲　米磨ぎ　掃除　洗ひ物　用足し　庭掃除　水汲　炊事　火焚き　野菜とり　みそすり

註：手伝仕事を養蚕関連，その他の農事関連等，家事等の別に分けた。秋蚕休みには，その他の農事関連等はほとんど見られない。
用語は，ほぼ記載されているままにした。

表1－2）
田中，鳴瀬町宮戸・角田市金津（1989）
宮戸小・藤尾小4～6年，金津中1～3年の，祖父母世代70代80代の「10歳前後時の記憶」についての聞き取りによる。したがって，ほぼ1920，1930年代，男女100名分（うち宮戸は8名）である。

男子	女子
蚕ほし　桑かけ	桑つみ　桑やり　繭かき
海草とる時，子どものできる仕事（運ぶなど）　畑（田）の草取　稲刈り　農作業（手伝い）（水田の）　しろかき　はなどり　田んぼ　家業の手伝い　馬方　馬の手入れ　馬の草刈り　エサ切り	草取り
家畜に水　えさを与える山にいって枯木はこぶ　マキひろい　マキ割り　おつかい　庭はき　水くみ　風呂たき　子守り　妹の子守　雨戸しめ　ランプそうじ　食事の用意　すいじ　家事	うらの山からたき木取り　庭そうじ　水くみ　風呂たき　子守り　ぞうきんがけ　雨戸しめ　ランプそうじ　ごはんたき　食事の用意　すいじ

表１－３）
相沢他，角田市金津（宮城教育大，1980）

男子（1906生の２名に面接聞き取り。したがって，ほぼ1910，1920年時の記憶。）	女子（1911生の１名の面接聞き取り。母はいない，父は公務員，田畑はない。）
桑の葉つみ	
馬喰の手伝い（馬の草刈り）　牛の鼻取（田んぼを耕す）　わら仕事（草履，雪靴）	
ランプのほやそうじ　風呂たき　雨戸しめ	ほやそうじ　部屋そうじ　食事の準備　水くみ（台所の水がめ，風呂）　風呂たき　家事の大部分

表２
田中，鳴瀬町宮戸・角田市金津（1989）
表１－２）と同様，親・祖父母世代50代・60代の聞き取りによる。したがって，ほぼ1940・1950年代の男女163名分（うち宮戸は20名）である。

男子	女子
農繁期は桑つみ	桑かけ　桑つみ　蚕のある時の仕事
つり	カラカラつなぎなど　干物たたみ
農作業（手伝い）　稲苗はこび　田うえ　草とり　草つみ　稲はこび　縄ない　牛・馬の世話	田や畑の仕事（手伝い）　草むしり　うさぎの草とり　野菜とり動物のせわ
家畜のせわ　うさぎのえさやり　たき木とり　フロのマキはこび　水くみ　風呂たき　かいもの　庭そうじ　家の内と外のそうじ　ぞうきんがけ　子守り　雨戸たて　戸締まり　洗たくものの整理　整とん　家事の手伝　夕食の手伝い　食事の後片付け	うさぎの餌取り　家畜の餌与え　火の用心回り　マキ取り　マキ割り　水くみ　風呂たき　かいもの　庭はき　玄関はきそうじ　ふきそうじ　子守り　雨戸しめ　カーテンあけしめ　ランプのそうじ　ごはんたき　食事の用意（手伝い　じゃがいもむき食事の後片付け　茶わん洗い　曾祖父母の世話　洗濯

表３
田中，鳴瀬町宮戸・角田市金津（1989）
表１－２）と同様，親世代30代・40代の聞き取りによる。したがって，ほぼ1960・1970年代の男女363名分（うち宮戸は44名）である。

男子	女子
桑つみ　桑かけ　養蚕	蚕の手伝い　桑つみ
漁業手伝い　アサリとり　網修理の手伝い	家業手伝（海産物）
代かき（馬で）　竹スキ　田植　草むしり　動物に与える草とり　乳牛の牧草をリヤカーで家に運ぶ　タバコの葉とり　稲刈り　稲はこび　麦刈　豆引　動物の世話　牛に　餌と水　牛馬の世話　鋳造作業（家業）	田の水引き　苗はこび　田植　草刈　稲刈　稲はこび　子牛に水をのませる
家畜の世話　鶏の世話　うさぎの世話　山み（風呂・のみ水）　風呂そうじ　風呂たき　庭はき　ぞうきんがけ　子守り　きょうだいの世話　雨戸しめ　戸締まり　洗たく　食事の用意　食事の後片付け	鶏のエサやり　犬の世話　たき木とり　マキ割り　水くみ（井戸）（風呂・のみ水）　風呂洗い　風呂たき（マキくべ）　かいもの　庭そうじ　玄関のそうじ　そうじ　子守り　雨戸あけしめ　米とぎ　ごはんたき（マキくべ，くどばん）　食事の用意　食事の後片付け　食器洗い　仏前のお供え　洗たく洗たくものの片付け

表4－1）
田中，鳴瀬町宮戸（1989）
宮戸小4～6年，計50名（回答率4・5年は90.0%，6年は70.0%である。）

男子	女子
のりの手伝い　のりつみ　のりの選別　のりの機械のスイッチ　舟に乗って父の手伝い　民宿	民宿手伝い　料理（手伝い）　電話番　牛乳　配達
庭はき　玄関そうじ　そうじ　くつそろえ　風呂洗い　子守り　弟と遊んでやる　カーテンの開閉　ふとんしき　米とぎ　食器出し　食事運び　食器片付け　食器洗い　食器ふき	庭のそうじ　部屋のそうじ　風呂洗い　かいもの　弟と遊ぶ　カーテンの開閉　ふとんしき　食事の用意　後片付け　食器洗い食器ふき　洗たく　洗たく干し

表4－2）
田中，角田市金津（1989）
藤尾小4～6年（計112名，回答率4・5は82.6%，6年は44.2%である。）

男子	女子
田畑の仕事　タバコ　草むしり　草運び　店の手伝い　家業の手伝い	わら運び　水かけ　しいたけつめ　かわら運び手伝い（父の）　動物の世話　牛の世話
風呂の水くみ　風呂たき　おつかい（とうふなど，牛乳や毎日食べるもの）　庭はき玄関はきそうじ　弟と遊ぶ　赤かぶの皮むき　つけものをつける　米とぎ　食事のおかず作り　食事を運ぶ本堂のお供えを下げる　カレンダーやぶき　洗たくものの片付け	うさぎの世話　うさぎ・鶏の餌やり（父の手伝い）　犬の散歩　風呂洗い　水くみ　風呂わかし　かいもの　庭はき　玄関はきカーテンしめ　食事の用意　料理　食事の後片付け　食器洗い　食器ふき　黒板に予定を書く　洗たく　洗たくものをとりこむ

表4－3）
田中，角田市金津（1989）
金津中1～3年（計228名，回答率は56.1%である。）

男子	女子
父の農業の手伝い　田植え　稲刈り　稲はこび　畑仕事　しいたけ栽培の手伝い　なんでも屋の手伝い（ペンキぬりなど）　ペンキぬり　配達　新聞配達　穴ほり　力仕事牛の世話	
犬の世話　犬のさんぽ　猫の餌やり　マキ割り　風呂洗い　水くみ　風呂たき　かいもの　庭はきそうじ　カーテンしめ　料理の手伝い　テーブルふき　食器運び　食器洗い　洗たく	家畜の餌やり　犬の世話　おかいもの　庭のそうじ　部屋そうじ　玄関そうじ　風呂そうじ　子守り　弟の世話　食事の用意（手伝い）　ごはんたき　テーブルふき　食器を出す　食器ならべ　食器洗　食器ふき　後片付け　仏様の鼻をかえる　仏様にごはんをあげる　洗たく　洗たく干し

(1) 手伝仕事の移行

おおよそ現代に至るまで，10歳前後を中心とする子どもの手伝仕事の種類にみられる性格は，次のように整理できる。

1）親の生業労働に参加する，また，時としては親と交替して労働し得ることである。例えば，田の代かき，牛の鼻とり，田植え，稲刈り，豆ひきなどの例がある。

2）次に，一定の技術や体力が必要であり，親の労働の一部またはその有効な補助の役割をも

っている。その例の１つは，草とり，稲運び，ぼや拾いなどの農作業の一環である。また，蚕に関わる細かい作業，たとえば桑を餌として整える行程，しき紙・こも・ござ・網・籠に関わる手作業，繭かきなどがある。漁業では，船に乗り組む，網の修理などがある。

3）上の２）と重なる部分を含め，子どもが一定の役割を受けもつ，あるいは子どもにできる仕事として定められている。農繁期における家事一切，マキとりの全行程，水汲み，くどばん，ホヤ掃除，蚕棚の部屋の雨戸の開閉，子守りなどがある。

4）月浜と金津においては，1970年代位まで子どもたちの手伝仕事の種類は，親の労働やその一部，またはそれを支えるという点で一定し集中している。男女の子どもの手伝仕事の種類には，目立った違いがみられない事も注目される。それらはまた，村の生産や生活に根ざし，自然や動物にかかわり，技能や創意・工夫が要請される。

1989年現在の子どもたちの調査では，家業の手伝い・風呂焚き・動物の世話・子守りなど，それまでの手伝仕事を継承する性格をもつものの，食事の用意手伝い・後片づけ・洗濯・新聞配達など，家の内部や周辺における単純な作業的な要素が多く含まれている。

(2) 近代化以前の手伝仕事の性格

近代化・産業化以前のこれらの集落においては，子どもたちの手伝仕事は，大人の労働を補助または補完していた。その役割は一定しており，それら全てが親や大人たちに必要とされ，期待され，いわば公共性・社会性をもっていた。その内容は自然・動物・技術に関わり，全身の身体をつかい，家の外・移動・力が必要な場合が多い。それらは厳しくつらいものであると同時に，時としては果実・魚介・鳥・その他の生物などの収穫物の役得や報酬，大人たちの受容，発見・工夫・上達の面白さ，遊びへの流動など，複雑な要素をもっている[8)]。とくに，上記３）の子どもに定められた仕事「農繁期の家事一切・マキトリ・水汲み・くどばん・ホヤ掃除・雨戸の開閉・子守り」などは，男女ともに子どもの仕事として普遍性をもっている。なおかつ，男子だけが参加した子供組行事の「お籠もり」「宿」においても，これらの技能の殆どが必要である。

子どもの遊びの種類

表５－１）
竹内，信州東筑摩郡本郷村（1936）

男子	女子
鬼ごっこ　陣とり　凧揚げ　スケート　雪投げ　スキー　野球　水浴び　相撲　魚とり	鬼ごっこ　泥巡ごっこ　くにとり　スケート　雪合戦　テニス　棒倒し　川遊び　水浴び　摘み草
たんが転がし　釘さし　旗書き　玉　馬落とし　じゃんけんとび　くじとび　度胸だめし　縄跳び　とびっくら	竹の子ぬき　かごめかごめ　棒かくし　押しくら玉　電車ごっこ　人取り　じゃんけんとび　縄跳び　羽根つき
こじき　めんこ　十六むさし　店屋ごっこ　ふざけっこ　独楽　しゃぼん玉　花火　竹　トンボ　ちんがら	売りやごっこ　物かくし　ままごと　花火まりつき　猫売り　おこわまんま　坊さん坊さん　ちょんぎりごっこ　花書
将棋　積木　五目並べ　双六　かるた　な　ぞなぞ　しりとり　にらめっこ　花あわせ　折紙	人形遊び　色紙　しりとり　なぞなぞ　かるた　双六　トランプ　ビーズ　ぬりえ　おはじき

註：家から遊び場までの距離によって，遠方，広場や道路，家の周囲・庭，家の中，の別に分けた。
用語は，記載されているままにした。

表5－2）
田中，鳴瀬町宮戸・角田市金津（1989）
ほぼ1920・1930年代，男女100名，「経験した遊び」項目選択の頻度が高い順。

男子	女子
かくれんぼ　虫とり　雪合戦　魚釣り　タコあげ（角ダコつくり）　鳥とり　竹スキー　ドッチボール　雪ぞり	かくれんぼ　れんげの花輪つくり　タコあげ　鬼さんこちら　虫とり　ドッチボール　陣取り　缶けり　ボール投げ　雪ぞり
竹馬　雪だるま　タガ回し　石けり　馬とび　影ふみ　おしくらまんじゅう　羽根つき　くぎさし　エスケン	かごめ　通りゃんせ　まりつき　影ふみ　花一もんめ　縄とび　雪だるま　エスケン　羽根つき　ゴムとび
コマ回し　水鉄砲　パッタぶち　ケン玉　ままごと　ベーゴマ　ハンカチ落し	ままごと　しゃぼん玉　コマ回し　ビー玉　パッタぶち　水鉄砲　ケン玉　ハンカチ落し　メンコ　ベーゴマ
腕相撲　竹遊び　すごろく　トランプ　指相撲　にらめっこ　将棋　マッチ棒遊び　かるた　竹返し	おはじき　お手玉　あやとり　ほうずき　ずいずいずっころばし　にらめっこ　すごろく　竹遊び　おちゃらか　トランプ

表5－3）
田中，鳴瀬町宮戸・角田市金津（1989）
ほぼ1920・1930年代，男女100名，「とくに面白かった遊び」について記述と図解をされたもの。

男子	女子
角だこをつくってあげた　七夕　戦争ごっこ　騎馬戦　山の中のふじづるを切ってぶら下がって遊んだ	陣取りゲーム
エスケン　コケラトリ　ベースボール（手で打ち，玉はゴム）　竹げたスケートや竹スキーを色々な感じに作る	ケンケンパー　石けり
かるた取り　トランプ	お手玉　おひなつくり

表6－1）
田中，鳴瀬町宮戸・角田市金津（1989）
ほぼ1940・1950年代，男女163名，「経験した遊び」項目選択の頻度が高い順。

男子	女子
かくれんぼ　ドッチボール　竹スキー　雪合戦　虫とり　魚とり　鳥とり　陣とり　国とり　凧揚げ	ドッチボール　かくれんぼ　レンゲの輪つくり　虫とり　缶けり　鬼さんこちら　国とり　凧揚げ　山くずし　竹スキー
竹馬　馬とび　かげふみ　おしくらまんじゅう　石けり　雪だるま　ゴムとび　花いちもんめ　コイの滝のぼり　かごめかごめ	通りゃんせ　かごめかごめ　おしくらまんじゅう　縄とび　かげふみ　羽根つき　花いちもんめ　山くずし　まりつき　竹馬
ベーゴマ　ビー玉　独楽　水鉄砲　ケン玉　バッタ　メンコ　たまっこぶち　しゃぼん玉　ハンカチ落し	ままごと　独楽　しゃぼん玉　ゴムとび　ハンカチ落し　ビー玉　ケン玉　バッタ　たまっこぶち　水鉄砲
トランプ　指ずもう　腕ずもう　竹遊び　あやとり　竹返し　あぶりだし　将棋　マッチ棒遊び　双六	お手玉　おはじき　あやとり　トランプ　ほうずき　ずいずいずっころばし　双六　あぶりだし　数珠玉つくり　知恵の輪

表6－2）

田中，鳴瀬町宮戸・角田市金津（1989）

ほぼ1940・1950年代，男女163名（うち宮戸は20名），「とくに面白かった遊び」についての記述と図解をされたもの。

男子	女子
兵隊ごっこ　侍（刀）遊び　自分で作った竹スキー遊び　小川での魚取り遊び　陣取り　ベイスボウル　大きいリヤカーと小さいリヤカーのかじ棒を互いに組み合わせ，後に帆を張り，風の吹く日に2～3人で乗って走る遊び　かくれんぼ　ごんぼす（小鳥取）　木の四輪車	学校帰りにみんなでたんぼの中で雪合戦をした　かくれんぼ　自転車乗りで遊んだ　土手で紙をしきすべって遊んだ
竹細工で小鳥かごを作って遊んだ　てんばた作（たこ上）　竹馬作　杉の実鉄砲　竹スキー作（火で曲げる）　ずんぐり作り遊び（こま）　手製のコマ回し　足ずもう　軍人合せ　パッタ　竹馬　パッチ打　カッケ打　エス　ケンケン	石けり　まりつき　ゴムトビ　けんけんでとぶ　馬のり　なわとび（20人位でなわとびした）　領土ふやし　こけらとり　馬とび　杉鉄砲（しの竹と杉の実でつくる）
	おはじき　あやとり　サンペイ人形を作った　シジミやハマグリの貝に布を縫い合わせてカバンに下げた　里芋の皮に糸を巻いてテマリを作った　にらめっこ

表7－1）

田中，鳴瀬町宮戸・角田市金津（1989）

ほぼ1960・1970年代，男女363名（うち宮戸は44名），「経験した遊び」項目選択の頻度が高い順。

男子	女子
かくれんぼ　ドツチボール　虫とり　竹スキー　雪合戦　竹げたスケート　場所とり　山くずし　凧揚げ　魚釣り	かくれんぼ　ドッチボール　凧揚げ　魚釣り　山くずし　缶けり　レンゲの輪つくり　雪合戦　鬼さんこちら　ドロケイ
石けり　釘さし　エスケン　馬とび　竹うま　雪だるま　雪ぞり　通りゃんせ　おしくらまんじゅう　影ふみ	かごめかごめ　通りゃんせ　おしくらまんじゅう　花いちもんめ　ゴムとび　まりつき　影ふみ　竹うま　石けり　なわとび
ベーゴマ　パッタ　ビー玉　水鉄砲　めんこ　ケン玉　たまっこぶち　ハンカチ落し　しゃぼん玉　独楽	ままごと　しゃぼん玉　ビー玉　ハンカチ落し　グリコ　水鉄砲　独楽　ベーゴマ　パッタ　めんこ
トランプ　腕ずもう　指ずもう　竹遊び　おはじき　将棋　マッチ棒遊び　にらめっこ　お手玉　あぶり出し	おはじき　お手玉　あやとり　トランプ　ほうずき　双六　ずいずいずっころばし　にらめっこ　指ずもう　腕ずもう

表７－２）

田中，鳴瀬町宮戸・角田市金津（1989）

ほぼ1960・1970年代，男女363名（うち宮戸は44名），「とくに面白かった遊び」について記述と図解をされたもの。

男子	女子
陣とり（浜で，秋から冬にかけて10～15人で年齢別に分かれて，汗をかき寒さを忘れる位遊んだ）　８の字遊び　かくれんぼ　友達と家を作って，２，３日自給自足の生活をした　野火　原っぱでチャンバラごっこ巡査ドロボー　ろく虫　兵隊ごっこ　缶けり	かくれんぼ　蛍取り　四方山　しじみ取り（夏休というと毎日潮の満干をきいて）（リヤカー１台ひいて近所の友人と，弁当も自分で作った）　せり取り・よもぎ取り（春先，遊びが生活に密着していた）　泥をまるめたり，野原の草花を使ってスープやケーキを作り，貝殻で作ったスプーンでままごと　用水路を使ってままごと遊び　ママごと（その辺の不用になったもので，草花を使って本当に切ったりしてごちそうを作った）　竹スキー　陣取り（稲刈あとの田んぼ）　（土の上に大きな円を書いて）　ダイヤモンド　ろくむし（ろくもんす）　ログムス　缶けり
竹トンボ　チャンバラ　竹馬　独楽回し　ズングリ（独楽）　ケン玉　ビー玉（斜面の穴に入れながら，少しづつ上にあげて頂上をめざす）　草の実鉄砲（竹と草の実）　かっけぶち（同じ木ぐい（カッケ）で相手の木ぐいを倒して取れる遊び）　紙鉄砲　水鉄砲　杉鉄砲（シノ竹と杉の実）　パッタ（メンコ）　馬のり　石けり　三角ベースボール（人数が少ない時や狭い場所でやる）　瓦けり　片足とび　釘さし　三輪車遊び	缶詰に縄をつけて遊ぶ　縄とび（大勢で）　ビー玉（順番に，おさめ玉か途中の待っている玉を当てる）　こけら取り（おはじきで）　石けり（氣に入った石を袋に入れて持ち歩き，遊びの時に使った）　（よい瓦の破片をみつけると，丸くきれいに研いで大事にした）　まんじゅうけり（土粘土のまんじゅう型を投げつける）　馬のり　馬っこ乗り　ドッチボール　千代紙を集めて友達と交換する　フラフープ　ずんさどろぼう　地面に木や石や棒などで好きな絵を描き，オニが描いた人と使ったものを当てる
	お手玉つき　着せかえ（洋服等はすべて手づくり）　毎年（４歳～４年生頃まで）ボール箱・色紙・卵の殻でお雛さまを作り，人の来る場所に飾りつけた　友達ときれいなきれの交換　キャラメルの紙の交換　ミルクのみ人形（小４・５年）（自分で簡単なスカートや服を作って着せました，ふとんも作りました）

表８－１）

田中，鳴瀬町宮戸・角田市金津（1989）

小学校４～６年，男女162名（うち宮戸は50名），「経験した遊び」項目選択の頻度が高い順。

男子	女子
ドッチボール　魚釣り　かくれんぼ　虫とり　鬼さんこちら　竹スキー　凧揚げ　ボール投げ　雪合戦　雪ぞり	かくれんぼ　色おに　氷おに　凧揚げ　ドッチボール　雪合戦　ボール投げ　缶けり魚釣り　山くずし
かげふみ　なわとび　雪だるま　竹うま　馬とび　おしくらまんじゅう　ゴムとび　かごめかごめ　通りゃんせ　エスケン	ゴムとび　花いちもんめ　なわとび　かごめかごめ　おしくらまんじゅう　竹うま　雪だるま　羽根つき　影ふみ　石けり
パッタ　めんこ　水鉄砲　ケン玉　独楽　しゃぼん玉　ビー玉　ベーゴマ　ままごと　ハンカチ落し	しゃぼん玉　ままごと　水鉄砲　ビー玉　ハンカチ落し　独楽　ケン玉　パッタ　めんこ　ベーゴマ
指ずもう　腕ずもう　トランプ　将棋　マッチ棒遊び　竹あそび　あやとり　ほうずき　おはじき　数珠玉つくり	あやとり　指ずもう　茶摘み　腕ずもう　お手玉　おはじき　トランプ　ずいずいずっころばし　おちゃらか　双六　いすとりゲーム

表8－2）
田中，鳴瀬町宮戸（1989）
宮戸小4～6年（計50名，回答率4・5年は83.0%，6年は100%），「最近，学校から帰って一番よくする遊び」について記述の頻度が高い順。

男子	女子
ファミコン　TVをみる　ゲーム　バレーボール　トランプ　マンガ　読書　ビデオ　かくれんぼ　陣取り　風船バレー　ゲームボーイ　缶けり　鬼ごっこ　バター練習　けんか　野球　エスケン	バレーボール　読書　TVをみる　音楽　マンガ　ビデオ　人形　かかし　バスケット　鬼ごっこ　外で遊ぶいろいろ　TVゲーム　壁を使ってキャッチボール　的あてボールで遊ぶ　犬の世話・じゃれあう

表8－3）
田中，角田市金津（1989）
小学校4～6年（計112名，回答率4・5年は94.2%，6年は95.3%），「最近，学校から帰って一番よくする遊び」について記述の頻度が高い順。

男子	女子
TVをみる　ファミコン　野球　ゲームボーイ　ゲーム　マンガ　サッカー　トランプ　TVゲーム　キャッチボール　プラモ改造　読書　なわとび　スケボー　屋根のぼり　缶けり　火の用心があるから遊べない　パソコン　ラジコン　PCエンジン　いろいろ遊んでわからない	TVをみる　ファミコン　トランプ　犬・うさぎ・ねこ・とり・動物と遊ぶ　スケボー　バレーボール　読書　エレクトーン　絵をかく　なわとび　ビデオ　マンガ　学校ごっこ　ローラースケート　ゲームボーイ　ボールで遊ぶ　火遊び　自転車　バドミントン　キャッチボール　買い物する　CD　カセット　友達の家に行って遊ぶ　何もやらない　毎日ちがう遊びをしている

表8－4）
田中，角田市金津（1989）
中学1～3年（計228名回答率52.2%），「最近，学校から帰って一番よくする遊び」について，記述の頻度が高い順。

男子	女子
TVをみる　ゲーム　ファミコン　音楽　野球　TVゲーム　パソコン　サッカー　ゲームボーイ　ギターを弾いて歌をうたう　読書　マンガ　将棋　新聞　遊ばない　猫とプロレス　マージャン　花札　寝る　遊ぶひまなし　ボール　ワープロ　PCエンジン　ラジコン　あまり遊ばない　カセット　CD　夕方友人とマラソン　友人と話合う　友達の家に行って遊ぶ　毎日違う遊びをしている	TVをみる　読書　ファミコン　トランプ　ビデオ　マンガ　音楽　テニス　犬と遊ぶ　ゲーム落書　猫と遊ぶ　TVゲーム　絵をかく　ラジオ　野球　遊ばない

(3) 近代化以前の「遊び」の特徴

遊びは子どもの生命であり本領であるといわれる。また，いわゆる手伝仕事と遊びを区分けしないという考え方もある。遊びは元来，子どもたちの独立した世界で行われる場合が多く，ある場合は集団の勢いがあり，始終展開し，流れ，移行していく要素がある。そのために，それらを正確にとらえる事は困難である。遊びの発生は，伝承，伝播，模倣，創作，それらのバリエーション等様々であり，それらの性格も自然や生物との関わり，集団的なもの，相手をえらぶもの等，多岐にわたる[9]。これらの多くは，機会さえ与えられれば歴史的に子どもたちに連綿と受け

継がれている。しかし与えられる機会の差は，遊びの種類の範囲と経験する量に歴然とした差をもたらしている。

1920年代から1970年代までに，10歳前後を中心とする子どもたちの経験の中で，多くの種類と量を占めた遊びの領域はおおよそ次ぎのようである。

1）自然の中で，戸外で，時には工夫・技能・技術や発見・創意を伴う遊びの例

水浴び，川遊び，魚貝・虫・蛍・小鳥とり，凧揚げ，摘み草，せり・よもぎ取り，山の中，土手の遊び，竹（下駄）スキー，雪ぞり，度胸だめし，リヤカー，木の四輪車，自転車

2）集団性・組織性をもつ遊びの例

雪合戦，人取り，陣取り，国取り，泥巡・鬼ごっこ，戦争ごっこ，馬落とし，騎馬戦，チャンバラごっこ，かくれんぼ，電車ごっこ，かごめ，缶蹴り，石蹴り，じゃんけんとび

3）個人的な技術を要するもの，創作的な遊びの例

釘さし，十六むさし，タンガ転がし，メンコ，ベーゴマ，ビー玉，ケン玉，おはじき，水鉄砲，杉鉄砲，てんばた，竹馬，ずんぐり，コマ作り，パッチ打ち，カッケ打ち，縄とび

「とくに面白かった遊び」として挙げられた事例には，土地の利を生かしたものや創作的な特徴がみられ，男女ともに豊富にその説明や図解が挙げられた。その中で，土地の利を生かした（家から）遠方の遊びにおいて男女の違いが顕著にみられた。

4）調査時の「遊び」の特徴

1989年の調査時点では，これまでの自然，生物，集団性，創作・技術などの要素を失い，家の中，機器・用具をつかうもの，ルールが決まっているスポーツなどが圧倒的に多い。とくに金津の中学生が「学校から帰って一番よくする」ものとして挙げた中では，男女ともに外で遊ぶ種類は1～2種と極端に少ない。その中で，機器をつかう遊びに，男子のほうが種類が多くみられた。「今，遊びのために欲しいもの」は，「ゲームボーイやファミコン」が総数349人のうち53.8%，「時間」が30.2%であった。

子どもたちが遊ぶための「時間」が不足する理由として予測されるのは，1つは，学校や自治体等が組織する「子供会」「スポーツ少年団」「少年野球チーム」であり，これらにはほぼ全員が加入している。子どもたちが集落の講に基づく子供組から子供会へ組織されていく移行の過程は，1930年代の信州にみられたが[10]，全国的には若者組から青年団への再編と同様に，もっと早い時期であったと推測できる。2つめの理由は「塾・習い事」で，宮戸小学校4～6年では平均週3.1回（そろばん，習字，ピアノ，踊り，剣道），金津小学校では平均週2.3回（そろばん，習字，学習塾，剣道，空手，野球，エレクトーン，ピアノ，合唱，くもん，柔道）である。金津中学校1～3年では，平均週1.9回（珠算，書道，英語・数学などのゼミ，剣道，エレクトーン，ピアノ，合唱）などである。

Ⅲ　近代化以前の子どもと，大人および環境

(1)　手伝仕事や遊びの意味

月浜と金津では，すべての子どもたちが子供組を担ってきた。近代化以前の子供組行事は，それ自体が子どもにも大人にも集落にとっても大きい意味をもっていたが，子どもたちにとっては日常の手伝仕事や遊びを集約しおさらいをする機会でもあった。子供組行事は，自分の家を出て，集落から期待される特別の任務を担う集団に属し，厳しい仕事や規律を伴うと同時に，未知

の遊びや報酬などのたのしみなど，格別の興奮を誘うものであった。それはまた，親を含めた社会生活を知り，社会への対応や自治力を身に付ける機会の１つとしてあった。

彼等の日常の手伝仕事や遊びには，子供組行事に含まれる意味の殆どの要素を含んでいた。たとえば，かなり普遍的に子どもの役割とされていたマキトリ・くどばん・子守りなどのように，自然や技術，労力と深く関わり，家族や隣近所の人間関係における責任を担うことであった。陣取り，馬取り，小鳥獲り，魚釣り，草摘みなど，自然と関わりつつ行われる遊びの中で，組織性や自治力を培い，自分の技能を磨いたりしつつ，それ自体が生産，経済と繋がっている場合もあった。時には，子どもたち自身が自分の力で得たものを売ったり報酬をうけたりすることが出来たのである。

このような，子どもたちにとって全き自律しているように見える世界は，大人や経済を含めた環境がその存立を保証していたのである。そこには，例えばつらい労働や規律や因習，好ましくない人間関係，悪などについても身をもって知り，同時に人間関係の中での歓び，たのしみ，発見，創造など，社会生活や環境への対処等，多数で複雑な因子が存在した。このような意味で，子どもと，大人とそれらを巡る環境との間で，目にみえ手応えのある相互作用が生きていたと言える。

(2) 経済と環境の移行

現在の宮戸島月浜では同じ海と浜を相手に生業が成り立っているが，機械の導入や観光客など，その環境が大いに変化してきている。大人たちのお伊勢講の役割も形態も変化した。「棕櫚の会」と現代的なネーミングをし，植樹をして浜を美しく保つ努力や，湿地に橋をかけて自然を生かす工夫をしつつ，生産面での情報交換や共有地の管理，消防などの自治がはかられている。今も浜では夕方になると，大人や子ども，犬まで入り混じって水浴びをするなど，海と浜をたのしむ光景がみられる。また小さい五十鈴神社の境内や，よろず屋の縁台などで子どもたちが集まったり行き交ったりしている。

10年前の子供組を担った５人のうち最年少のすっけ大将が現在18歳になり，それぞれが家業のノリの跡継ぎ，石巻の大学，アルバイト，仙台の専門学校で家業を継ぐ準備などに巣立った。近代の学校制度は個々の子どもが自分の職業を選択するという前提で，子どもたちを囲い込んだのであったが，月浜においては，海と浜を相手に生業が営まれる限り，集落の一定の共同性は必要である。子どもたちは自分の家業に関わる経営や技術について，それぞれの専門機関で修得するものもあり，従来の集落の機能や共同する力と資本制経済や学校制度の論理との間にはきびしい葛藤がある。

Ⅳ ま と め

(1) 前近代の日本において，広範囲に子ども集団を成立させていた事実は，そこに独特の子育て・教育の意味を含み，親子関係に関わるアジア的な慣習[11]の中でも稀有のようである。それを成り立たせていた集落の社会においては，大人の労働や経済に根ざす目的が意図されていた。しかしながら，子ども集団の内部については，大人が一切干渉しない自律した子ども社会であり，自分たちが想像及ばない独自な世界の存在を大人は用意していたのである。勿論，大人たちが目の前の一人一人の子どもについて，近代的，発達論的な意味で子ども期の独自性を

認識する事[12]は，不可能であったことは自明である。しかし，大人と様々の因子を含んだ環境が，子どもの特性を発揮しその必要を満たす独立した場を認めていた事は確実である。

(2) 現在の子どもたちは，親の労働や自然への関与，生物の扱い，種々の技能を身に付ける，様々の人間関係をつくる，などの重要な要素をもった手伝仕事・遊びを失ったのであろうか[13]。1997年の愛媛県内の都市部，中都市部，農漁村部の中学1年生の比較調査では，農漁村部では家業の手伝い，都市部でも自営手伝やアルバイトなどが僅かにみられた[14]。

現在，多くの近代的な小家族や学校教育においては，子どもについてその全体的な成熟に関わる問題として，身の回りや生活習慣上の自立および家事手伝いの不足が課題とされている。国際比較においては，日本の子どもたちのそれらに関する意識，実践は極端に低い。日本とは逆に，たとえば欧米においては trick or treat やベビーシッターなどの慣習が根づいており，子どもたちの自立・手伝やボランティア・アルバイトなどの実行率の高さが見うけられる[15]。日本において，子どもの環境をはげしく変化させた背景には，人々の経済への極端な傾斜という点があげられる。子どもと大人および環境との相互の間の具体的な関係の仕方において[16]，子どもたちが独自に活躍する場所が保証されていた事実を，足下に引きつけてみつめ直す必要がある。

註

1）Ariès, Philippe, L'enfant et la vie familiale sous l'Ancien Régime, 1960（杉山他訳，<子供>の誕生 アンシァン・レジーム期の子供と家族生活，みすず書房，1980）

2）本田和子，異文化としての子ども，紀伊国屋書店，1982．中内敏夫他，子どもの社会史 子どもの国家史，新評論，1984．小林　登他遍，新しい子ども学，新曜社，1985．森上史朗他編，子ども学研究，建帛社，1987．他．

「子ども学」の呼称は，佐野美津男（1980），小林登（1985）が使用はじめた。佐野は，「子ども像ではなく，子どもの実際の姿をどう観るかが重要である」と述べている。

3）Convention on the Rights of the Child, 1989に基づいて，少年法や児童福祉法見直しと論議がすすめられた。近年は児童買春禁止法が成立した。

4）竹内利美，上伊那郡川島村郷土誌，1934．同「子ども組について」，民族学研究 21－4．柳田国男，「子ども風土記」，1942（定本柳田国男集 第21巻，筑摩書房，1970）「村と学童」（同），「小さき者の声」（同），「分類児童語彙」（同）．とくに竹内が，子どもに割り当てられた手伝いを手伝仕事と呼んだことに倣った。

Hannah Arendt（1906－1975）は，労働（labor）とは人間の肉体の生物学的過程に対応する活動力であり，仕事（work）は人間存在の非自然性に対応する活動力である，と述べている（The Human Condition, 1958）。前近代の子どもの手伝仕事そのものは，大人や環境によって必要とされ用意されたのである。

5）田中弘子，『子どもの発見』—先行に関する試論（1），岩手県立盛岡短期大学研究報告 49，1996

6）上掲，1934

7）上掲，1934

8）上掲，1934

9）酒井　欣，日本遊戯史，第一書房，1983．森　洋子，ブリューゲルの「子供の遊戯」—遊びの図像学—，未来社，1989

10）上掲，1934

11）上掲，1984

12）G. Marphy, The Process of Creative Thinking, Educational Leadership（14），1956，pp. 11－15. Kamii, C, De Vrie, R, Physical Knowledge in Preschool Education, 1978（吉田恒子他訳，あそびの理論

と実践　ピアジェ理論の幼児教育への適用，風媒社，1985).
13) 子どもの権利条約 市民・NGO 報告書をつくる会編，子ども期の喪失，花伝社，1997
14) 小笠原美晴，卒業研究「家事労働のゆくえ―子どもの手伝い及び生活的自立との関連―」，1998
15) 日本女子社会教育会，家庭教育に関する国際比較調査報告書　子どもと家庭生活についての調査，1995，pp.68－100
16) アーネ・リンドクウィスト，ヤン・ウェステル，あなた自身の社会，新評論，1997，pp.103－138

参考文献

1 Ariès, Phillipe, <教育>の誕生，中内・森田訳，新評論，1884
2 Illich, I, Deschooling Society, Marion Boyars, 1971
3 Otto Steiger, VAGABUNDENSCHULE, 1987（高柳訳，フリー・スクール，リブリオ出版，1994）
4 加藤定夫，子どもの社会化と幼児教育，恒星社厚生閣，1982
5 河合雅雄，子どもと自然，岩波新書，1990
6 ジョーダン，M.，池田訳，アーミッシュに生まれてよかった，評論社，1992
7 宮田　登，江戸の小さな神々，青土社，1989
8 村山貞夫，江戸時代の子供教育思想の研究，高千穂書房，1977
9 森　洋子，描かれた家族と子ども，子どもとは，海鳴社，1986
10 Lidz, Ruth W. & Lidz, T., Male Menstruation: A Ritual Alternative to the Oedepal Transition, International Journal of Psychoanalysis 58－17, 1977

（1999年10月12日受理）